

公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

I 法人の概要 (令和3年4月1日現在)

1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号

2 設立年月日

昭和51年3月25日

3 代表者

理事長 利島 康司

4 基本財産

2,107,426千円(設立時の基本財産2,416,798千円)

5 北九州市の出捐金

1,650,000千円(出捐の割合 68.3%)

6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11人	0人	1人	10人
常 勤	1人	0人	1人	0人
非常勤	10人	0人	0人	10人
職 員	58人	6人	0人	52人

7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興、北九州市における観光事業の健全な振興に資するとともに、コンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

II 令和2年度事業実績

【概況】

MICE分野では、日本政府観光局(JNTO)発表の2019年の国際会議開催件数において、北九州市は3年連続で全国第8位の好成績となったほか、毎年恒例の自主事業の実施やコンベンションなどの誘致・開催、貸館営業などに積極的に取り組んできたが、令和2年初頭からの新型コロナウイルス感染症(以下、「新型コロナ」という。)の感染拡大により、業績全体への大きな影響があった。

観光分野では、観光客誘致・滞在化促進のため、国内外でのセールスの実施や、情報発信、観光に関する施設の管理・運営に取り組んだが、新型コロナの感染拡大により観光客数が大きく落ち込み、MICE分野同様業績へ多大なる影響があった。

収支においては、新型コロナの影響により、展示会や観光客が大幅に減少したことから、MICE事業・観光事業ともに、事業収益が大幅に減少し、黒字確保には至らなかった。新型コロナの感染状況は先行きが不透明であるため、当面は、コスト管理の徹底と国等の支援策の活用、北九州市との対応策の連携等を行いながら、今後の事業展開に向けた準備を行い、中長期的な競争激化への対応も踏まえ、自立した経営を維持する。

見本市・展示会事業

1 主催・共催事業

(1) 例年、西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与することを目的に、国や地域の行政機関等の施策や方針との連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催しているが、令和2年度は新型コロナの影響により、主催・共催事業のほとんどがオンライン開催、あるいは開催中止となった。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

※（ ）内は令和元年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本製造技術イノベーション2020	6月17日～19日 (コロナ禍で中止)	中止 (31,672)	中止(66)
第46回ふくおか産業技術振興展			中止(19)
第42回西日本陶磁器フェスタ	9月18日～22日	30,765人 (56,379)	149社(230)
エコテクノ2020オンライン見本市 ～地球環境ソリューション展～	10月6日～2月26日 (オンライン開催)	4,200ビュー (28,120)	37社・団体(54)
エコテクノ2020オンライン見本市 ～エネルギー先端技術展～			49社・団体(86)
中小企業テクノフェア in 九州2020 オンライン展示会			30社・団体(51)
P.P.C.2020 オンライン 第22回西日本国際福祉機器展 Web	10月15日～2月12日 (オンライン開催)	22,342ビュー (18,611)	119社・団体(141)
合計	開催1事業 オンライン3事業 (8事業)	30,765人 30,297ビュー (134,782人)	開催149社・団体 オンライン235社・団体 (647)

【外部環境が変化する中での展示会開催に向けた主な取り組み】

ア オンライン展示会の開発と陶磁器フェスタのリアル開催

新型コロナ感染拡大の状況を受け、対面を基本とした展示会の多くが中止となったが、地域経済交流の仲介役としての展示会の役割を維持すべく、オンラインを活用した展示会の開催等を行った。また、感染状況が一時的に小康状態になった時期に、西日本陶磁器フェスタをリアルで開催した。

○ 西日本製造技術イノベーションの開催中止

当初、前年度を上回る出展申し込みが集まっていたが、新型コロナの感染拡大により、出展見合わせが相次いだことなどにより、4月に開催中止を決定した。

○ 西日本陶磁器フェスタのコロナ禍における開催

全国の展示会が中止される中で、新型コロナの感染状況が小康状態となった時期に開催した。
（一社）日本展示会協会「展示会業界における COVID-19 感染対策ガイドライン」に準拠した感染症対策を徹底し、人気の飲食系イベント企画を見直すなど、来場者及び出展者の安全・安心を最優先にした結果、無事に会期を終えることができた。開催期間中には、西日本総合展示場の会場利用者や各地の展示会主催者が視察に訪れ、コロナ禍における大型イベント開催のモデルケースを示すことができた。

イ 成果のあがる展示会の構築（継続的マッチング支援）

コロナ禍のため、リアルの対面によるマッチングが行えない状況にあったが、オンラインでも出展社とユーザーとのコミュニケーションがスムーズに行えるよう、きめ細やかな支援を行うことでマッチングの成果創出に尽力した。

○ 製造技術マッチングフェア（商談会）

展示会を介した地域中小企業の販路拡大支援として、（公財）福岡県中小企業振興センターの協力を得てオンライン商談会「製造技術マッチングWEEK」を開催した。

○ 中小企業テクノフェア in九州2020 ビジネスマッチング事業

産業コーディネータ集団「NPO法人北九州テクノサポート」と連携し、マッチングの件数と質の向上を目指した取り組みを行った。令和2年度はオンラインでのシーズ説明会を開催し、ビジネスマッチングを実施した。

(2) 主催・共催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。

(28 テーマ、参加者数 2,193 人)

2 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、福岡県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

(2) 国際化の推進

ア 韓国BEXCO（釜山国際展示場）とのMOU事業

MOUを締結しているBEXCOと、オンラインを通じて、展示会の再開に向けての国際MICE動向や相互の展示会の状況について共有した。

イ 展示会の国際化

オンライン開催したエコテクノでは、海外顧客に向けて、ホームページ上に展示会参加企業の技術紹介動画をアップすることで、メールやオンライン会議等を利用した、具体的な商談に繋げた。

(3) 新たな価値創造を目指した見本市運営

人と人との接触機会の低減が求められる中で、オンラインと商談などのリアルな面談が重要視される部分を組み合わせたハイブリッド型の展示会の開催手法について、検討を進めた。

また、見本市・展示会運営の将来を担う若手担当者のスキルアップを図るため、九州で公的な展示会を主催する団体と協同で「開催に向けたノウハウに関する発表会」を開催した。

会議・大会等

3 誘致・支援事業

- (1) 北九州市がグローバルMICE都市に選定されて以来、ローカルホスト及びグローバルMICE推進協議会との連携を強化し、積極的な誘致活動を進めた。日本政府観光局(JNTO)発表の2019年の国際会議開催件数は3年連続となる全国8位と好成績をおさめた。
- (2) 国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に取り組んだ結果、令和2年度の開催状況は、69件となった。また、これらの誘致活動および開催助成金の効果的な活用の成果として、令和3年度以降に合計166件(令和3年3月31日現在)のコンベンションが予定されている。

なお、観光庁作成の「MICE開催による経済波及効果測定モデル」によれば、令和2年度の当協会が誘致し開催した案件による経済波及効果(間接2次波及効果、雇用効果を含む)の推計値は14億294万円であった。

◆年度別開催件数の推移 (単位:件)

区分	国際	全国	その他	合計
R2年度	0	30	39	69
R1年度	127	73	116	316
H30年度	114	80	87	281

◆年度別参加者数の推移 (単位:人)

区分	国際	全国	その他	合計
R2年度	0	12,077	5,088	17,165
R1年度	72,088	75,745	50,288	198,121
H30年度	86,372	69,256	40,913	196,541

◆令和2年度開催の主な会議・大会

規模	名称	開催時期	会場	参加人数 (オンライン(外 数))	海外からの 参加国数
全国	The 2nd Annual Congress of Asia Society of Hip Arthroscopy & Preservation (アジア股関節学会 2020)	R2年4月	北九州国際会議場	120人 (230人)	8ヶ国
	International Conference on Activity and Behavior Computing (ABC)	R2年8月	北九州国際会議場	120人 (400人)	2ヶ国
	International Conference on Informatics, Electronics and Vision (ICIEV), International Conference on Imaging, Vision and Pattern Recognition (IVPR)	R2年8月	北九州国際会議場	120人 (400人)	2ヶ国
	第46回日本骨折治療学会	R2年9月	AIM3階	180人 (3,820人)	
	IEA/AIE 2020 (The 33rd International Conference on Industrial, Engineering & Other Application of Applied Intelligent Systems)	R2年9月	北九州国際会議場	136人 (352人)	15ヶ国

	SOMET2020(The 19th International Conference on New Software Methodologies, Tools and Techniques)	R2年9月	北九州国際会議場	105人 (264人)	10カ国
	日本医用画像情報学会 秋季(第188回)大会	R2年10月	九州工業大学 戸畑キャンパス	126人 (36人)	
	バイオメディカル・ファジィ・システム学会 2020年度年次大会	R2年10月	九州工業大学 戸畑キャンパス	236人 (100人)	
	第30回日本耳科学会総会・学術講演会	R2年11月	西日本総合展示場新館 北九州国際会議場	1,500人 (700人)	2カ国
	第47回日本マイクロサージャリ学会学術集会	R2年11月	北九州国際会議場	764人 (574人)	
	産業医科大学基礎研修会冬期集中講座	R2年12月	北九州国際会議場	1,734人	
	第43回日本美容外科学会総会	R3年2月	リカヨールホテル小倉	542人 (354人)	
	ALLCD International Conference on Low carbon City Design after Pndemic2021 of Asian Institute of Low Carbon Design 2021・ALLCD International Competition Workshop 2021 "Re-thinking the HIBIKINO Campus 2001-2021" Kitakyushu (Japan)	R3年3月	北九州学術研究都市 北九州市立大学	350人 (215人)	3カ国
	言語処理学会 27回年次大会(NLP2021)	R3年3月	北九州国際会議場	200人 (7,500人)	
	The 9th International Conference on Industrial Application Engineering (ICIAE2021)	R3年3月	北九州国際会議場	125人 (220人)	5カ国
九州 西日本	2020 第48回日本選手権九州予選大会(中学生硬式野球大会)	R2年7月	桃園球場 的場池球場 他	1,200人	
	九州支部第7回学術講演会・総会(工学系の学会) 併設事業「第8回中国・九州支部合同研究会」[シニアから学ぶ技術講演会]	R2年11月	九州工業大学 戸畑キャンパス	110人	
	第30回東アジアホープズ卓球大会日本代表選手選考会	R3年1月	北九州市立総合体育館	900人	

【主な取組】

○誘致営業

通常の誘致活動に加え、オンラインを利用した活動を行い、また関係機関との連携や人的ネットワークの維持にもオンラインを取り入れた。

コロナ禍においては、先行きが不透明で、特に国際会議は主催者等も開催地や開催方法の決定が困難な状況ではあるが、いくつかの案件が誘致に繋がった。

○スポーツ誘致

コロナ禍の中、積極的な誘致活動を行い、第38回全日本シニアバドミントン選手権大会、文部科学大臣杯第18回日本車椅子ハンドボール競技大会、第15回春季全日本小学生男子ソフトボール大会等、50件、延参加人員6.8万人のスポーツイベントを北九州市に誘致することができた。今後は昨今注目され競技人口が増えているeスポーツにも範囲を広げ、誘致活動を行っていく。

○グローバルMICEの推進強化

国際会議協会ICCAをはじめとした、これまでに培ってきた国内外の関係団体とのネットワークを活用しながら、国際会議誘致やオンラインMICE商談会への参加など積極的な事業展開に取り組んだ。

令和2年度は、新型コロナの影響により、JNTOが毎年開催している各種現地商談会が開催されなかったが、唯一オンラインで開催された「国際MICEエキスポ（オンラインIME2021）」に参加し、様々なキーパーソンや学会主催者に対して本市の魅力を積極的にPRした。

また、北九州市国際観光推進協議会が参加するオンライン・インバウンド商談会にも参加し、コロナ後を見据えたインセンティブツアー商品の造成と送客を働きかけた。

○ローカルホストとの連携強化

大学等との「コンベンション誘致・開催に関する連携協定」に基づき各大学の教授会でMICE説明会を開催し、連携強化を行った。また、新型コロナの影響により、毎年開催する「首都圏交流会」を中止としたが、その代替として、本市で過去にコンベンションを開催、あるいは継続案件を持つ会議主催者に対して、本市の助成金制度や支援制度を案内するなど、本市でのMICE開催の魅力をPRした。

(3) 主催・共催事業については、北九州国際会議場等を活用し、幅広い年齢層を対象に各種イベントを企画していたが、新型コロナの感染拡大防止のため、令和2年度は中止、または誌上開催とした。

◆イベント・大会等の企画、開催（主催・共催）

※（ ）内は令和元年度実績

事業名	開催日	入場者数
小倉まちづくりミテイング 泡盛ナイトinこくら	中止	-人 (191人)
第27回北九州将棋フェスティバル	中止	-人 (837人)
第20回全国俳句大会in北九州	誌上開催	853人 (822人)

※俳句大会の入場者数は事前投句応募者数

貸館利用者の誘致・営業強化

4 営業体制の強化

(1) リピーターへの定着化フォロー及び過去利用者への提案営業

既存利用者の催事の延期や中止について、利用者のニーズに沿った日程の提案を行った。また、コロナ禍にあっても確実な開催が期待される試験案件や例年複数回の利用がある自動車会社の催事については、安心安全に開催できるようきめ細やかなサポートを行った。

(2) 新規利用者の開拓

テレビ局や音楽プロモーターとの連携を深め、新規利用の予約を受けていたが、新型コロナの影響により、中止となった。他方で、各種試験については、感染対策が施された広い会場のニーズが高まったことなどから、16件の新規催事が開催された。

(3) 主催者等への各種支援の実施

令和2年度は、新規及び大規模利用主催者に対して、集客広報や代理申請手続きなどの各種支援の実施を計画していたが、新型コロナによる施設の利用状況の変化に伴い、支援内容の重点を「安心・安全なイベント開催」に変更した。具体的な支援として、ドーム型サーモカメラやサーキュレータ等の感染対策機器の無料貸し出しや関係機関や他の催事から収集した感染防止対策に関する情報提供などを行った。

◆令和2年度 新規展示会・見本市等の誘致実績

催事名	開催時期	催事名	開催時期
佛所護念会周年事業	R2年7月	日本語能力試験	R2年12月
SHINRAI TALK 九州	R2年9月	第二種電気工事士下期技能試験	R2年12月
一級管工事施工管理技術検定試験 学科	R2年9月	おやつ CS 2020 Winter Festival カードゲーム	R2年12月
第三種電気主任技術者試験	R2年9月	第一種電気工事士技能試験	R2年12月
日中韓新人 MANGA 選手権	R2年9月	グレースギャバ展 in 小倉	R2年12月
保育士(後期)筆記試験	R2年10月	第106回薬剤師国家試験	R3年2月
二級建築施工管理技術検定学科	R2年11月	CareTEX 福岡 福祉機器展 BtoB	R3年2月
秋季提案会代替え開催&やさしいメニュープレゼン	R2年11月	TOEIC Listening&Reading 公開テスト	R3年3月

5 閑散期対策等のイベントコーディネート

夏季や冬季のにぎわいイベントとして、いくつかのイベント開催が予定されていたが、いずれも新型コロナの影響により中止となった。

◆令和2年度 閑散期対策イベント等

催事名	会期	入場者数
プラレール博 in KITAKYUSHU	R2年7月22日～26日	中止
いきものキングダム	R2年7月31日～8月30日	中止
トミカ博 in KITAKYUSHU	R3年1月8日～19日	中止

広報・宣伝、地域連携

6 広報、宣伝

ホームページでのイベント情報・施設紹介、協会主催事業やコンベンション誘致に関する情報の提供を行ったほか、広報誌「催事案内」を発行し、集客に活用した。また、北九州市の玄関口である北九州空港やJR小倉駅では、施設内にある電照広告看板や大型ディスプレイを用いて施設PRを行った。

7 地域連携

小倉駅新幹線ロエリアの地域振興団体と共同で、交流イベントや地域清掃活動等の実施、「こく

らマップ」のM I C E参加者等への配布等、地域の活性化・にぎわいづくりに取り組んだ。

また、J R主要駅に近接する施設の特徴を生かすため、J R九州・J R西日本と連携し、効果的な主催事業等のP Rを行った。

管理・運営

8 お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

利用者に対して、そのニーズを的確にくみ取り、丁寧な対応を心掛けた。特に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、感染対策用機器の無料貸し出しや利用にかかる情報をホームページ上に適宜公開した。また、コロナ関係の窓口設置など、北九州市からの要請に応じ、利用者との調整を行った。

ミクニワールドスタジアム北九州での試合やイベント開催時には、スタジアム来場者が展示場・会議場利用者に影響が及ばないように、ギラヴァンツ北九州等の主催者・関係者と事前に会場周辺についての打ち合わせを行い、トラブル防止に努めた。

(2) 職員の資質・能力の向上・人材の確保

主に職場におけるQ C活動を活発化するとともに、「国際会議場施設協議会」「全国展示場連絡協議会」において、施設のコロナ対策等、書面による意見交換を実施し、職員の資質・能力の向上を図った。

9 管理業務の効率化

国際会議場多目的交流ラウンジおよび駐車場進入口天井照明のL E D化による電力使用量の低減や、メンテナンス等委託業務の内容の見直しなど、管理経費の削減に努めた。

10 施設の改修等

施設の老朽化対策や利便性・安全性の向上等のため、施設設備の改修更新等を行った。

【主な実施内容】展示場本館：屋根防水改修工事、空調設備改修、大展示場救護室設備取替等
国際会議場：1 F 交流ラウンジの美観回復工事、感染拡大防止対策設備・備
品導入、オンライン会議用機器導入、L A N回線更新、等

11 施設の稼働率等

◆西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
R2 年度	23	234	67.2	8
R1 年度	61	308	88.0	27
H30 年度	64	299	86.9	24

◆西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数(件)	稼働日数(日)	稼働率(%)	入場者数(万人)
R2年度	89	224	64.2	12
R1年度	171	274	78.3	57
H30年度	193	309	86.6	56

◆北九州国際会議場の利用状況

区分	件数(件)	稼働日数(日)	稼働率(%)	入場者数(万人)
R2年度	338	226	61.9	2
R1年度	536	323	91.0	7
H30年度	539	334	96.0	8

12 指定管理

指定管理期間の2年目であった令和2年度は、新型コロナの感染拡大に伴う2度の緊急事態宣言発出による施設の休館・時短措置やイベント開催制限、利用者の開催自粛等があり、指定管理計画に掲げた目標(来場者数(展示場・会議場)96万人、コンベンション誘致件数250件など)の達成まで至らなかった(実績:来場者数22万人、コンベンション誘致件数124件など)。

令和3年度についても、新型コロナの収束時期が見通せない中で目標達成は厳しい状況下にあるが、計画的・組織的な取組を進める。

観光客の誘致及び滞在化の促進

13 観光客誘客事業・滞在化促進事業

北九州市及び観光関連企業で「北九州市国内観光客等誘致促進協議会」等を組織し、国内・海外において本市の観光資源や新しい観光情報等のPRを行った。その他、北九州市の緊急経済対策関連事業に係る助成金等の支給窓口業務を通じて、観光関連事業者への支援を行った。

【北九州市国内観光客等誘致促進協議会事業】

お城EXPO 2020(横浜・12月18日～20日)への展示出展を実施した。また、日本新三大夜景都市を活用した夜景PRのため、夜景ARアプリや皿倉山夜景プロモーション映像の制作を行った。その他、ハローキティを活用した観光PRとして、市内にARフォトスポットを設置した。

【緊急経済対策関連事業】

新型コロナの感染拡大を受けて、緊急経済対策関連事業を実施した。

14 修学旅行誘致事業

北九州市及び修学旅行関連企業と連携し、主要都市の旅行会社へのセールス活動を行った。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

15 企画広報宣伝・情報収集調査事業

機関誌・観光関連書籍の発行やホームページの運営等により、広報宣伝と観光情報の収集・調査に努めた。

観光に関する人材の育成及び啓発

16 百万にこここホスピタリティ運動

新型コロナの影響により、協賛金募集を見送ったため、予定していた各観光事業者の海外の観光客のおもてなし活動の取組紹介や、観光事業者のスキルアップに向けたセミナーの開催及び観光用マップの制作などの実施を見送った。

17 観光案内ボランティアの養成及び派遣

(1) 観光案内ボランティア制度運営

例年、旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等でのガイド活動や、イベント、祭りに合わせて設置した特設観光案内所でのガイド活動や、ガイドのレベル向上のため観光案内ボランティア研修会を開催しているが、令和2年度は新型コロナの影響により、ガイド活動の一時休止や研修会の中止を余儀なくされた。

① 旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区をはじめとするガイド活動

・ガイド件数 88件 ・ガイド人数 861名 ・活動者数 129名

② イベント、祭りにあわせて設置した特設観光案内所でのガイド活動及び観光案内ボランティア研修会

・新型コロナの影響により、全て中止

(2) 北九州観光市民大学

期 間 11月10日～3月25日 計10回 ※新型コロナの影響により1回中止
受講者数 17名（うち、北九州市観光案内ボランティア登録者8名）

特産品の紹介・宣伝

18 特産品の紹介・宣伝

(1) ホームページでの紹介、販売（オンラインショップ）等

・北九州観光市場（発注件数 377件） ・Yahoo!ショッピング（発注件数 115件）
・ふるさと北九州市応援寄附金返礼品（受注件数 959件）

(2) 大規模イベント会場での臨時売店設置

市内外での大規模イベントにおいて臨時売店を設置した（設置件数：6件）。

観光に関する施設の管理運営

19 観光案内所運営業務

【北九州市観光案内所運営協議会】

北九州市、九州旅客鉄道(株)、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)と北九州市観光案内所運営協議会を組織し、官民一体となり市内 3 箇所の観光案内所におけるサービス強化を図った。

《案内件数》

北九州市総合観光案内所：19,784 件、門司港駅観光案内所：4,849 件

北九州空港総合観光案内所：5,833 件

【北九州産業観光センター】

北九州産業観光センター（北九州市、北九州商工会議所、当協会）において、産業観光協力企業と工場見学等に関する調整を行うとともに、産業観光ツアー及び工場夜景クルーズへのガイド・ナビゲーターの派遣等を行ったが、令和 2 年度は、新型コロナの影響により、視察やツアー等の多くが中止となった。

《参加状況》産業観光視察（中止）、工場夜景ツアー（クルーズ、バス）（1 件 20 名）

工場夜景定期クルーズ 実施主体：関門汽船(株)（9 件 231 名）

20 土産品・特産品売店の管理運営

門司港レトロ地区の主力のお土産センターとして「北九州おみやげ館」を運営。令和 2 年度は新型コロナの感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出により 3 度休業を行ったが、営業再開に際しては、ガイドラインに基づき、パーテーションや消毒液の設置、営業時間の短縮等の感染拡大防止対策を行った。また、緊急事態宣言解除後の「Go To トラベル」実施期間は、地域共通クーポンを利用した買い物など特産品 PR・販売促進を図った。

また、TOTOMミュージアムショップの運営を受託しており、「北九州おみやげ館」同様の対応を取りつつ、産業観光と連携した土産品の紹介・販売を行った。

21 小倉駅イベント広場等の管理運営

JR 小倉駅 3 階在来線改札口前の JAM 広場について、イベントや観光展などへの貸し出しを行った。また、同場所において、大型映像装置「JAMビジョン」で、市政情報・啓発 CM や観光情報、広告 CM 等の放映を行った。特に新型コロナ関連の情報についても多く取り扱った。

Ⅲ 令和2年度決算

1 貸借対照表(総括表)

令和3年3月31日現在(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	748,218,721	679,237,352	68,981,369
売掛金	8,897,014	7,091,555	1,805,459
未収金	140,763,348	57,655,086	83,108,262
棚卸資産	3,989,003	6,701,315	▲ 2,712,312
貯蔵品	810,134	625,197	184,937
前払金	688,883	788,601	▲ 99,718
立替金	28,612	2,380	26,232
仮払金	17,141,534	18,526,863	▲ 1,385,329
流動資産合計	920,537,249	770,628,349	149,908,900
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	342,349,448	380,144,240	▲ 37,794,792
建物付属設備	1	1	0
構築物	4	5	▲ 1
機械及び装置	18,818,474	30,350,144	▲ 11,531,670
基本財産引当資産	761,261,282	761,181,274	80,008
減価償却引当資産	984,997,371	984,968,914	28,457
基本財産合計	2,107,426,580	2,156,644,578	▲ 49,217,998
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	182,451,557	187,043,346	▲ 4,591,789
減価償却引当資産	13,015,822	15,695,576	▲ 2,679,754
目的事業引当資産	625,112,525	625,112,525	0
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震等改修工事引当資産	192,000,000	191,148,500	851,500
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
広報宣伝強化費用準備資金積立資産	10,000,000	10,000,000	0
特定資産合計	1,105,229,904	1,111,649,947	▲ 6,420,043
(3) その他固定資産			
建物	3,664,883	3,922,565	▲ 257,682
建物付属設備	452,644	532,759	▲ 80,115
構築物	1,116,942	1,331,645	▲ 214,703
車両運搬具	2,006,680	1,342,729	663,951
什器備品	7,267,944	7,519,014	▲ 251,070
機械及び装置	1,666,835	2,006,680	▲ 339,845
ソフトウェア	29,206,576	36,155,008	▲ 6,948,432
リース資産	0	894,600	▲ 894,600
繰延税金資産(長期)	5,384,000	5,604,000	▲ 220,000
その他固定資産合計	50,766,504	59,309,000	▲ 8,542,496
固定資産合計	3,263,422,988	3,327,603,525	▲ 64,180,537
資産合計	4,183,960,237	4,098,231,874	85,728,363

II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	2,575,731	2,721,065	▲ 145,334
未払金	117,152,102	105,592,082	11,560,020
前受金	65,981,175	12,891,909	53,089,266
預り金	109,031,131	12,264,522	96,766,609
仮受金	45,000	2,747,291	▲ 2,702,291
未払法人税等	20,125,100	33,317,900	▲ 13,192,800
賞与引当金	12,055,770	10,864,547	1,191,223
流動負債合計	326,966,009	180,399,316	146,566,693
2. 固定負債			
退職給付引当金	182,451,557	187,043,346	▲ 4,591,789
リース債務	0	894,600	▲ 894,600
預り敷金	600,000	600,000	0
固定負債合計	183,051,557	188,537,946	▲ 5,486,389
負債合計	510,017,566	368,937,262	141,080,304
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	756,000,000	756,000,000	0
展示場設備受贈益	301,651,800	324,891,931	▲ 23,240,131
基本財産運用益	5,261,282	5,181,274	80,008
指定正味財産合計	1,062,913,082	1,086,073,205	▲ 23,160,123
(うち基本財産への充当額)	(1,062,913,082)	(1,086,073,205)	(▲ 23,160,123)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	2,611,029,589	2,643,221,407	▲ 32,191,818
(うち特定資産への充当額)	(1,044,513,498)	(1,070,571,373)	(▲ 26,057,875)
(うち特定資産への充当額)	(922,778,347)	(924,606,601)	(▲ 1,828,254)
正味財産合計	3,673,942,671	3,729,294,612	▲ 55,351,941
負債及び正味財産合計	4,183,960,237	4,098,231,874	85,728,363

2 正味財産増減計算書（総括表）

自 令和2年4月1日
至 令和3年3月31日（単位：円）

	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	10,514,365	11,079,587	▲ 565,222
展示場設備受贈益	23,240,131	23,326,508	▲ 86,377
特定資産運用益	3,976,500	4,228,500	▲ 252,000
受取会費	8,954,000	9,796,200	▲ 842,200
事業収益	440,630,025	839,608,402	▲ 398,978,377
受取補助金等	410,181,464	315,708,764	94,472,700
受取負担金	35,819,424	73,102,122	▲ 37,282,698
協賛金	0	690,000	▲ 690,000
雑収益	17,582,985	23,737,676	▲ 6,154,691
経常収益計	950,898,894	1,301,277,759	▲ 350,378,865
(2) 経常費用			
事業費	950,227,852	1,157,454,678	▲ 207,226,826
管理費	12,517,760	12,311,340	206,420
経常費用計	962,745,612	1,169,766,018	▲ 207,020,406
当期経常増減額	▲ 11,846,718	131,511,741	▲ 143,358,459
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
建物除却損	0	3	▲ 3
建物付属設備除却損	0	3	▲ 3
機械及び装置除却損	0	6	▲ 6
什器備品除却損	0	458	▲ 458
ソフトウェア除却損	0	0	0
経常外費用計	0	470	▲ 470
当期経常外増減額	0	▲ 470	470
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	20,125,100	33,317,900	▲ 13,192,800
法人税等調整額	220,000	140,000	80,000
当期一般正味財産増減額	▲ 32,191,818	98,053,371	▲ 130,245,189
一般正味財産期首残高	2,643,221,407	2,545,168,036	98,053,371
一般正味財産期末残高	2,611,029,589	2,643,221,407	▲ 32,191,818
II 指定正味財産増減の部			
基本財産運用益	4,009,510	4,192,508	▲ 182,998
一般正味財産への振替額	27,169,633	27,439,008	▲ 269,375
当期指定正味財産増減額	▲ 23,160,123	▲ 23,246,500	86,377
指定正味財産期首残高	1,086,073,205	1,109,319,705	▲ 23,246,500
指定正味財産期末残高	1,062,913,082	1,086,073,205	▲ 23,160,123
III 正味財産期末残高	3,673,942,671	3,729,294,612	▲ 55,351,941

IV 令和3年度事業計画

1 総論

【協会の活動】

当協会の役割は、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーンの一体的な運営によるグローバル志向のMICEを誘致開催するとともに、国内外の観光客誘致・滞在化を促進する観光事業の推進により、当地域の都市ブランド力の向上、新たな魅力創造及びシビックプライドの醸成に貢献していくことである。この役割を果たすため、次の活動方針に基づき、各種事業を展開していく。

- (1) 国・県・市の政策を反映した産業振興に貢献する主催事業の機能強化
 - ・北九州市等の政策を反映した自主事業の開催、ビジネスマッチング機能の強化、インキュベーション型自主事業の拡充、など
- (2) 国際会議を重視した精力的なMICE誘致開催活動
 - ・国際会議のキーパーソンへのアプローチ、商談会等での北九州の魅力の発信、誘致開催助成金の活用、広域ネットワークによる連携、など
- (3) にぎわいと新たな領域開拓による施設利用促進
 - ・西日本総合展示場新館・本館、北九州国際会議場の3施設一体管理による、にぎわい事業の実施と利用者の新規開拓、など
- (4) 利便性と顧客満足度の高い施設サービスの提供
 - ・利用者・来場者に満足してもらうための、きめ細かいサービスの提供や、快適な施設の運営、など
- (5) オンライン会議などを利用した国内外の観光客誘致・滞在化を促進
 - ・国内旅行客の誘客、インバウンド誘致の強化、地域資源を活用した情報発信力の向上、など
- (6) 観光資源、地域団体と連携したまちぐるみのおもてなし気運の醸成
 - ・観光事業・MICE事業協働による観光資源の活用、まちの魅力向上、など
- (7) 業務改善、チームワーク、個人の創造性を育む組織体制の構築
 - ・管理運営上の問題解決、職員能力向上のための教育研修の実施、など
- (8) 持続可能な施設運営に向けた環境経営
 - ・創意工夫による収入確保と経費節減につながるコスト管理、コンプライアンス遵守、リスクマネジメント、など

【指定管理計画の目標実現に向けて】

令和3年度は、西日本総合展示場新館、北九州国際会議場の指定管理期間の3年目を迎える。新型コロナの影響により厳しい状況は続くが、これまでの指定管理者としての実績を活かし、指定管理施設の活用と、周辺施設や関係団体との連携による魅力ある取組を行い、指定管理計画に掲げる目標（令和3年度：来場者数（展示場新館・本館、国際会議場）96万人、コンベンション誘致件数250件など）の達成に向け最大限努力する。

2 各論

協会主催事業の強化

(1) 時代に適応したハイブリッド型展示会の展開

展示会における新型コロナの感染拡大防止に万全を期するとともに、開催する8事業において、オンライン技術の活用による情報発信を組み合わせたハイブリッド型展示会を展開する。また、展示会の課題解決機能を向上させるため、従来6月と10月に開催してきたビジネス系の展示会を集約して「課題解決 EXP02021」の冠で開催する。生産性の向上やデジタルトランスフォーメーション (DX) の導入などによる、ESG (Environment・Social・Governance) 経営の推進をメインテーマとして開催し、展示会会場とオンラインを組み合わせたビジネスマッチングを実施する。

《令和3年度開催の事業》

事業名		開催日	入場目標	出展目標
課題解決 EXP O	西日本製造技術イノベーション2021	6月30日 ～7月2日	10,000人	70社・団体
	第47回ふくおか産業技術振興展			10社・団体
	エコテクノ2021 ～地球環境ソリューション展～			60社・団体
	エコテクノ2021 ～エネルギー先端技術展～			40社・団体
	エコ・ベンチャー・メッセ2021			20社・団体
	中小企業テクノフェア in 九州 2021			70社・団体
第43回西日本陶磁器フェスタ		9月16日～ 20日	45,000人	200社
P.P.C.2021 第23回西日本国際福祉機器展		11月18日 ～20日	10,000人	100社・団体
合計		8事業	65,000人	570社・団体

《企画内容の充実》

○ 西日本製造技術イノベーションにおける「航空宇宙産業」「DX」の紹介

産業構造の高度化や自動化技術の進歩により、生産が多品種小ロット化・多角化する製造業において、航空機宇宙産業の振興および参入促進や地域企業の製造現場におけるDX推進を目的とした主催者企画を実施する。その他、出展展示・会場内セミナー・交流会に加え、展示会への来場誘致(広報)を担うオンラインセミナーを活用し、オンラインとリアル展示会を結び実施効果の最大化を図る。

○ エコテクノにおける「BCP・災害対策コーナー」の設置

感染症拡大による移動制限や大規模水害の発生など、事業継続や危機管理は事業者・地域社会にとって重要課題となっている。また、政府も国土強靱化(ナショナル・レジリエンス)、防災・減災の取組みを、国家のリスクマネジメントと位置付け、気候変動への対応は新たなビジネス機会となっている。エコテクノでは、BCP(企業事業継続計画)や災害対策を、気候変動への対応や環境技術と同じ「人や社会を様々な変化から守る技術」と捉えて、「BCP・災害対策コーナー」を設置し、企業や行政が安心して暮らせる社会を構

築するための製品・技術を紹介する。

《ビジネスマッチングの開催》

○ 主催事業における商談等の促進

地元企業の受注確保や新規取引先の開拓支援のため、行政関連団体、金融機関などの協力によりビジネスマッチングを開催する。

《国際ビジネスの推進》

○ アジアの関係団体等への出展誘致の促進

韓国釜山広域市BEXCOとのMOUに基づき、相互の主催展示会のPR実施や、新規展示会のテーマ開発、感染症の影響下における対策などの意見交換を行う。また、感染症収束後に相互連携によるアジア各国への勧誘活動や、相互交流出展を行う。

(2) 『地域ニーズを捉えた新規企画』の導入と展示会運営の効率化

○ 展示会の新規開発・ブランディング等の調査研究

地域経済情勢を踏まえたテーマにより市場調査・経済分析を行い、新規展示会開発や展示会のブランディング、市場拡大のための他地域での展示会開催等について研究する。また、展示会主催団体との連携を図り、見本市・展示会の共同開催の可能性を探る。

○ 展示会運営の効率化

装飾・電気工事のプロポーザル制度の課題に基づいた見直しや、展示会公式サイトのプラットフォームの共有化による出展誘致・集客の効率的運用などに取り組み、展示会運営の効率化を図る。

コンベンション誘致の強化

(1) グローバルレベルの誘致強化

国内外の見本市・商談会へのオンライン参加などにより、北九州市でのMICE開催の魅力を積極的にアピールする。また国際会議協会（ICCA）に加入しており、ICCAを通じて北九州開催に適した会議の情報収集を行うなどグローバルレベルの誘致体制を整備する。さらに、SNSの活用による誘致情報の発信やホームページの更新などPRツールの充実を図る。

(2) 誘致営業活動についての取り組み

国際MICEエキスポ（IME2022）への出展や、北九州市MICE倶楽部首都圏交流会の開催などにより、商談への参加やキーパーソン等とのネットワークの継続・拡大を図る。新型コロナウイルス感染症が収束していない状況においては、オンラインによる営業を強化する。また、MICE開催助成金の効果的活用、令和3年10月に開催が決定している世界新体操を成功に導くことで、スポーツ関係の誘致等にも弾みをつける。

(3) ステークホルダーとの連携

地元大学と締結した「コンベンションの誘致及び開催に関する連携協定」や地元ステークホルダーと設立した「北九州市グローバルMICE推進協議会」を通じ、会議情報の共有やオンラインを含めた海外への誘致セールス、開催支援活動に取り組む。また、JNTOとの連携により国際会議を誘致した実績を活かし、JNTOとの連携を強化して誘致活動を推進するとともに、情報収集や北九州市の情報発信を図る。

(4) MICE開催地としての総合的な魅力向上

会議支援制度の継続実施、多彩なアフターコンベンションの提案、ユニークベニユーの活用、主催者ニーズに応じたコンベンションボランティアによる支援、新型コロナウイルス感染症対策費用への一部支援など、MICE開催地としての総合的な魅力向上を図る。

貸館利用者の誘致・営業の強化

(1) リピーターの利用再開と過去利用者の掘り起こしへの取り組み

リピーターの利用再開に向け、感染防止に必要な消毒・検温等を実施するハード面・ソフト面の提案を行い、安全安心に利用再開できる環境整備を行う。また、年間複数回利用がある「自動車」「建材・電設資材」等業界の利用については、利用日程の年間提案や重複防止の調整を行った営業により安定的・効率的な会場稼働を目指す。

(2) 新規利用者の開拓

展示会以外の新たな分野の利用開拓を進め、利用形態の多様化を図る。特に資格試験や入学試験などの試験会場については、感染症が収束していない状況下でも中止されることなく実施され、従来よりも広い会場を必要とするため、新規開拓に注力する。さらに、北九州市の新型コロナのワクチン接種やその他新型コロナ需要にも積極的に協力する。

(3) 新しい会場利用価値の創造へ向けた取り組み

DXにより実現したWeb上でのリアルとバーチャルを組み合わせたサービスや、ホームページの活用により開催後も継続して顧客と繋がることのできるサービスなど、会場利用者へ新たな価値や成果を提供するサービスの創造に取り組む。また、それらのサービスを使った企画提案型営業の確立に向けた調査・研究を実施する。

(4) エンターテイメント分野の誘致

全国を巡回するスマートフォンのゲームや本格的なeスポーツの大会、地方展開を行っているサブカル的なアイドルやアニメ関連イベント、コンサート等のエンターテイメント分野の北九州開催を誘致することで、会場利用の促進と来場者の増加を図る。また、これらの誘致を促進するため、イベント主催者となるテレビ局や新聞社、プロモーターとの連携強化を図る。

広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、小倉駅JAMビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示など、開催告知・集客対策を中心とした会場利用者の支援につながる広報活動を実施する。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口のにぎわいづくりと魅力アップに貢献するため、ミクニワールドスタジアム北九州などと連携したイベントを検討するとともに、小倉駅新幹線口地区振興連絡会と連携し、来訪者向けの情報発信や地域の交流活動を通じた地域活性化に取り組む。

また、小倉中央商業連合会との連携により、魚町商店街内に歓迎バナーやポスターを積極的に掲出し、小倉駅南北の往来活性化を図る。

お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

アンケートやヒアリング等で寄せられた意見について協会内で検討し、改善・対応策をホームページで公開することで利用者との信頼関係を構築する。

また、オンライン会議に必要な設備・備品の整備など、ウィズコロナに対応した施設サービスの提供に努める。

(2) 職員の資質・能力の向上

個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守等を意識しながら、職員資質、能力開発を図ることにより、サービスの質の向上を目指す。また、QC活動を通じて、日々の業務の見直しや職員間の意見交換、あるいは情報共有の意識を高め、組織全体のレベルアップを図る。

(3) 災害甚大化に対応する防災体制の検討

近年、自然災害による被害の甚大化が進んでおり、施設管理や災害時の危機管理が重要となっていることから、予防保全や危機管理体制の整備に努める。災害発生に備えて緊急時対応や連絡体制を構築し、利用者の安全、安心の確保に全力を尽くす。

(4) 施設・設備の改修等

LED等の高効率設備の導入や機器の更新による省エネ化を進める。

また、建物の壁面改修などの美観回復工事やオンライン会議への対応、感染症対策となる改修などに順次取り組むとともに、机・椅子等の備品類のメンテナンスに取り組む。

(5) 展示場本館の対応等

雨漏れの防止対策をはじめ、トイレ改修（洋式化）、中展示場・小展示場の空調システムの更新を検討し、美観回復と利用促進につながる改修を進める。

また、耐震改修工事については、定期利用者等との今後の利用日程の調整を慎重に行いながら工期の設定に向けた準備を進める。

観光客の誘致及び滞在化促進

(1) 観光客誘致事業・滞在化促進事業

マイクロツーリズムなど、ウィズコロナに対応できる受け入れ態勢を構築するとともに、国や北九州市の経済対策メニューと連携した事業を展開する。

東アジアを中心とした海外に向けては、新型コロナの収束後（アフターコロナ）を見据えて、海外の旅行社へのオンライン商談会などを活用した、きめ細かな情報発信、セールスを継続的に実施する。また、北九州市在住の留学生ブロッガー向けのFAMツアーなどを行い、最新情報を世界に向けて発信する。

国内に向けては、ターゲットを絞った観光キャンペーンや旅行社へのセールス活動を行い、マイクロツーリズムの推進や夜型観光資源を活用した滞在化促進を目指す。

(2) 修学旅行誘致事業

北九州市及び民間事業者で修学旅行誘致ワーキンググループを組織し、ウィズコロナに対応する修学旅行の増加に向けた独自メニューの開発や仕組みづくりを行い、旅行社へのセールス

を実施する。

(3) 助成事業

国や北九州市の経済対策メニューと連携した助成金事業を実施し、北九州市への旅行商品の企画を促進する。

観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

北九州市の観光情報やイベント・コンベンション情報を掲載した機関誌「北九州観光だより」の発行や北九州市観光情報サイト「ぐるリッチ！北Q州」の運営、観光カレンダーや観光絵葉書等の関連書籍の発行を行う。また、ホームページやFacebookのアクセス解析・分析を行うなど観光客誘致のシステムづくりに向けた調査を行い、その結果をウィズコロナ・アフターコロナの観光客のニーズに合致する観光素材の開発やPR活動の強化に活かす。

観光に関する人材の育成及び啓発

観光客の受け入れ体制の充実を図るとともに、アフターコロナの観光促進を図るため先進的取組を行う事業者のおもてなし活動について、Facebook等での情報発信を行う。あわせて、観光業務従事者を対象にアフターコロナにおけるおもてなしや観光戦略についてのセミナーを実施する。また、観光ボランティアについてもウィズコロナ・アフターコロナに対応できる体制を構築する。

観光に関する施設の管理・運営

公益目的事業では、北九州市、九州旅客鉄道(株)、西鉄バス北九州(株)、北九州エアターミナル(株)、当協会が組織する「北九州市観光案内所運営協議会」において、市内3ヶ所にある観光案内所において官民一体となったサービス強化を図る。

収益事業では、門司港レトロ地区で運営する「北九州おみやげ館」において、同地区の中心店的売店としてのPRを重点的に行い、また新商品や話題の商品等を考慮した品揃えの充実とキャッシュレスでの支払方法をより強化することで収益増を図るとともに、門司港レトロ駐車場及び周辺施設の安定的な事業運営を行う。また、JR小倉駅3階のJAM広場及びJAMビジョンについては、北九州市の玄関口にふさわしいにぎわいの創出につながるイベントの実施や新たな顧客開拓につながる営業活動を行うことで収益増を目指す。

特産品の紹介・宣伝

北九州市の特産品紹介のパンフレットの作成・配布を行う。また、ホームページで特産品を紹介し、通販サイトで購入できるシステムの管理運営と、市内外で開催されるイベントや観光物産展への参加により、購入機会の提供を行う。

通販サイトでは、商品構成を随時見直し、よりニーズの高いラインナップを取り揃えるとともに、話題性の高い商品の発掘など、魅力あるサイト運営に努める。

また、MICE事業との連携として、北九州国際会議場Sea Loungeへの特産品の常設展示、小倉駅新幹線口で開催される会議、大会、展示会等の会場における臨時売店の出店を行う。

V 令和3年度予算

収支予算書(総括表)

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日(単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合 計
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	4,983,000	1,573,000	3,930,000	0	10,486,000
展示場設備受贈益	17,663,000	5,578,000	0	0	23,241,000
特定資産運用益	1,993,000	109,000	0	0	2,102,000
受取会費	10,235,000	0	0	0	10,235,000
事業収益	294,481,000	419,144,000	0	0	713,625,000
受取補助金等	293,741,000	0	402,000	0	294,143,000
受取負担金	29,061,000	38,496,000	0	0	67,557,000
協賛金	500,000	0	0	0	500,000
雑収益	9,216,000	7,378,000	0	0	16,594,000
経常収益計	661,873,000	472,278,000	4,332,000	0	1,138,483,000
(2) 経常費用					
事業費	720,415,000	390,739,000	0	0	1,111,154,000
管理費	0	0	15,329,000	0	15,329,000
経常費用計	720,415,000	390,739,000	15,329,000	0	1,126,483,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 58,542,000	81,539,000	▲ 10,997,000	0	12,000,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 58,542,000	81,539,000	▲ 10,997,000	0	12,000,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外費用増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	38,074,000	▲ 43,465,000	5,391,000	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	12,000,000	0	0	12,000,000
当期一般正味財産増減額	▲ 20,468,000	26,074,000	▲ 5,606,000	0	0
一般正味財産期首残高	1,903,587,558	439,472,982	▲ 39,100,623	0	2,303,959,917
一般正味財産期末残高	1,883,119,558	465,546,982	▲ 44,706,623	0	2,303,959,917
II 指定正味財産増減の部					
基本財産運用益	0	0	4,010,000	0	4,010,000
一般正味財産への振替額	17,663,000	5,578,000	3,930,000	0	27,171,000
当期指定正味財産増減額	▲ 17,663,000	▲ 5,578,000	80,000	0	▲ 23,161,000
指定正味財産期首残高	206,515,359	65,214,485	761,261,282	0	1,032,991,126
指定正味財産調整額	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	188,852,359	59,636,485	761,341,282	0	1,009,830,126
III 正味財産期末残高	2,071,971,917	525,183,467	716,634,659	0	3,313,790,043

VI 役員名簿

令和3年7月1日現在

役職名	氏名	備考
理事長	利島康司	北九州商工会議所 会頭
専務理事	近藤 晃	(公財)北九州観光コンベンション協会
理事	北里勝利	北九州市産業経済局長
〃	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
〃	安部高子	北九州商工会議所女性会 副会長
〃	今崎正明	(一財)九州オープンイノベーションセンター 専務理事
〃	廣瀬香	(一社)九州経済連合会 総務広報部長
〃	関宣昭	NPO法人里山を考える会 代表
〃	棟安正人	(株)リーガロイヤルホテル小倉 総支配人
監事	山本浩二	北九州市会計室長
〃	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事